

植物防疫情報第3号

平成29年8月18日
岡山県植物防疫協会
岡山県病害虫防除所

モモせん孔細菌病の秋季防除を徹底しましょう

本年発生した圃場では来年の発生が多くなる恐れがあります。本病は単独の対策のみでは十分な防除効果が期待できず、防除を体系的に行う必要があります。このため、秋季からの防除を徹底して、次作に備えましょう。

1. 発生状況

岡山県病害虫防除所が8月9日に行った巡回調査によると、モモせん孔細菌病の発病程度は全般に高くないものの、発生圃場割合は50.0%で、**平年(27.9%)より高くなっています(図1)**。本病が本年発生した圃場は、前年からの伝染源量が多く、また、6月下旬～7月上旬の多雨が発生を助長したと考えられます。

2. 防除対策及び防除上の参考事項

- (1) 発生圃場において、新梢の枝病斑(夏型枝病斑、図2)から秋期に飛散した本病原菌は、当年枝の皮目や落葉痕などで越冬して翌年3～4月に春型枝病斑(スプリングキャンカー)を形成するなど、次作の重要な伝染源となります。このため、**夏型枝病斑を除去**し、圃場外に持ち出し埋設するなど適切に処分することが極めて重要です。
- (2) 飛散する伝染源量を下げするため、**9月～10月の秋季防除**を徹底しましょう。9月上～中旬にバリダシン液剤5の500倍(収穫7日前まで、4回以内)またはスターナ水和剤1,000倍液(収穫7日前まで、3回以内)を散布します。また、併せて9月下旬～10月上旬にICボルドー412(30～50倍)を2週間間隔で2回散布すると、さらに伝染源量の低下に有効です。
- (3) 風当たりの強い圃場では薬剤だけでは防除効果が得にくくなるため、防風ネット等の**防風対策**を徹底しましょう。

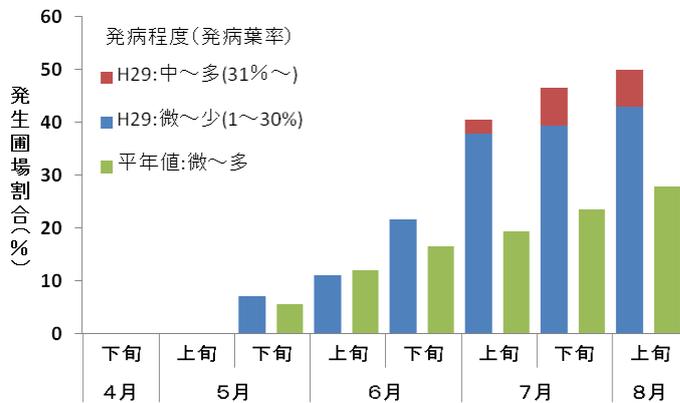


図1 本年の岡山県内におけるモモせん孔細菌病の発生推移(岡山県病害虫防除所による巡回調査データ(4月下旬～5月及び7月下旬～8月上旬は7地点28圃場、6月上旬は10地点36圃場、6月下旬～7月上旬は10地点37圃場))



図2 せん孔細菌病の病徴

左: 枝病斑(夏型枝病斑)
右: 葉の病徴

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、植物防疫情報第1号とともに岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

